

特集の意図

認知機能障害は研究の蓄積や脳機能画像の発展によりその責任病巣や発現機序が明らかにされてきた。本特集では、純粋健忘、相貌変形視、失音楽症、ソマトパラフレニア、時刻表的行動という特徴的な病態を示す5つの症候を取り上げ、神経心理学的側面から脳内メカニズムを探る。

特集の構成

1. 純粋健忘（田川皓一，時田春樹） 脳血管障害による純粋健忘について、その責任病巣や発現機序を多くの自験例を通して論じる。純粋健忘を引き起こす疾患はさまざまであり、病型も視床性記憶障害、海馬性記憶障害をはじめ、retrosplenial amnesia、前脳基底部健忘、脳弓性健忘、扁桃体損傷や尾状核損傷による健忘など多彩である。

2. 相貌変形視（菊池雷太，赤池 瞬） 相貌の認識において、顔かどうか、顔だとしたらそれが誰かという判断を行う機構は全体処理と呼ばれる。全体処理の中に不変的側面を処理するコアシステムと、変化する特徴を処理する拡張システムが存在するというHaxbyモデルをもとに、相貌変形視の自験例を挙げながら相貌の視覚情報処理について解説する。

3. 失音楽症例からみた音楽の脳内メカニズム（佐藤正之） 失音楽症例を通して、メロディの受容と表出には右上・中側頭回が関与していること、また、筆者により提唱された音楽無感症は右島と聴覚連合野が離断されることにより生じることを示す。また、非医学的な領域から提唱された先天性失音楽という概念により、単に音楽が苦手な人を病気としてしまうなどの問題が生じていることも指摘する。

4. ソマトパラフレニア（秋田怜香，他） ソマトパラフレニアは自分の手足が他人のもののように感じてしまう症候で、障害された部位に関して妄想的信念が生じるとされる。責任病巣や発現機序は諸説があり、精神疾患と合併した際には複雑怪奇な妄想に発展する可能性もある。典型的な症例、内臓感覚にソマトパラフレニアが及んだと考えられた症例、非典型的な経過を示した症例の自験3例からその特徴的な病態を紹介する。

5. 時刻表的行動 — 時間，行動，認知機能（二村明徳，他） 概日リズムと時計遺伝子を中心に時間感覚のメカニズムを解説し、認知機能との関連を示す。認知症では概日リズムが障害されることにより、時刻と内容がともに常同化された時刻表的行動がみられるようになる。これが患者の日常生活を占拠すると時刻表的生活となり、強迫性を帯びるようになる。